

【2026年冬期MC一般出題意図】

大問一：思想史という学問分野において、自分の選択した研究素材がどのような意義を有しているのか、また自分の研究手法がどのような独自性を有しているのかを論述させ、当該受験生が修士論文執筆に当たって、どの程度の準備段階にあるかを判定する問題である。なお、先行研究についての的確に把握できているか、修士論文作成に使用する史料を具体的に特定できているかといった点についても評価する。

大問二：当該受験生が、日本における思想の変遷を通史的に把握できているかどうかを判定する問題である。ただし、細かい固有名詞（人名・地名など）や事件の発生年代を記憶できているかどうかではなく、思想の大きな流れや意義付けの的確さを重視して評価する。

大問三：当該受験生の史料読解能力、とりわけ明治前期の漢文訓読体に対する精通度を判定する問題である。なお、史料に記されている内容の的確な把握はもちろんであるが、史料が記された時代背景への理解や、史料を思想史の素材として意義付ける分析眼の確かさなども合わせて評価する。